

血液型でノロウイルスの かかりやすさがわかる？！



今年も**ノロウイルス**の季節がやってきました。集団食中毒の原因として有名なノロウイルスは、牡蠣などの二枚貝の中で濃縮され、それを食べた人の腸管に感染して、急激な嘔吐や下痢、腹痛などの症状を引き起こします。「みんなで一緒に牡蠣を食べたのに、私だけ感染した。一体なぜ・・・？」そんな辛い経験をした方もいるのではないのでしょうか。実は、

ヒトの血液型によって感染のしやすさが違う
という研究が進んでいます。

米国バイラー医科大学の実験によって、ノロウイルスのプロトタイプ(初めて発見された種類)は、O型の人に感染しやすく、B型の人には感染しにくい傾向にあることが示されました。

人の血液型は、赤血球表面にくっついている糖鎖の種類によって決まっており、O型の人にはO型特有の糖鎖、A型にはA型糖鎖、B型にはB型糖鎖、AB型にはA型糖鎖とB型糖鎖の両方がくっついています。通常、これらの糖鎖は、赤血球表面だけではなく、腸管の粘膜上皮細胞や気道、唾液、体液中にも存在しているのですが、ノロウイルスは、**腸管細胞の表面にあるO型の糖鎖を認識**して、細胞内に入り込み、下痢や嘔吐などの症状を引き起こすということがわかりました。

では、B型の方は生牡蠣を食べても大丈夫か？！という、実は、ノロウイルスは突然変異が起きやすく、現在までに38種類以上の遺伝子型が見つかった多様性に富んだウイルス属です。各遺伝子型のウイルスが異なった血液型糖鎖を認識することもわかっているため、一概にB型の方は感染しない、とはいえないので。感染予防には、よく手を洗う、貝類は十分に加熱する、調理器具は熱湯消毒(85℃以上、1分以上)することが重要です。ちなみに、**アルコール消毒では失活しません**ので気をつけてください。塩素系消毒剤や漂白剤が効果的です。

(参考: http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k04/k04_11/k04_11.html)

記者紹介

松原 尚子



iPS細胞を知るための必読書！「iPS細胞物語」

祝！ノーベル生理学医学賞！iPS細胞の歴史や概要から再生医療・iPS細胞について研究する研究者のメッセージまでをわかりやすくまとめました。小論文対策に、朝学習に、勉強用に、ぜひ一読ください。

山中先生の取材記事も掲載中！

詳細・購入
はWEBから

iPS細胞物語 リバネスショップ

検索



12月18日は
ハロルド・ヴァーマスの誕生日

ハロルド・ヴァーマスはアメリカ合衆国の科学者で、レトロウイルスのがん遺伝子が細胞起源である事の発見により、ミカエル・ビショップと共にノーベル生理学・医学賞を受賞しました。

血液型によってかかりやすさが違うウイルスや病原菌は他にもあるんです。自然淘汰と深い関係があるともいわれています。

